

# 横瀬川ダム建設に伴う 環境影響について

## 5. 人と自然との触れ合いの活動の場

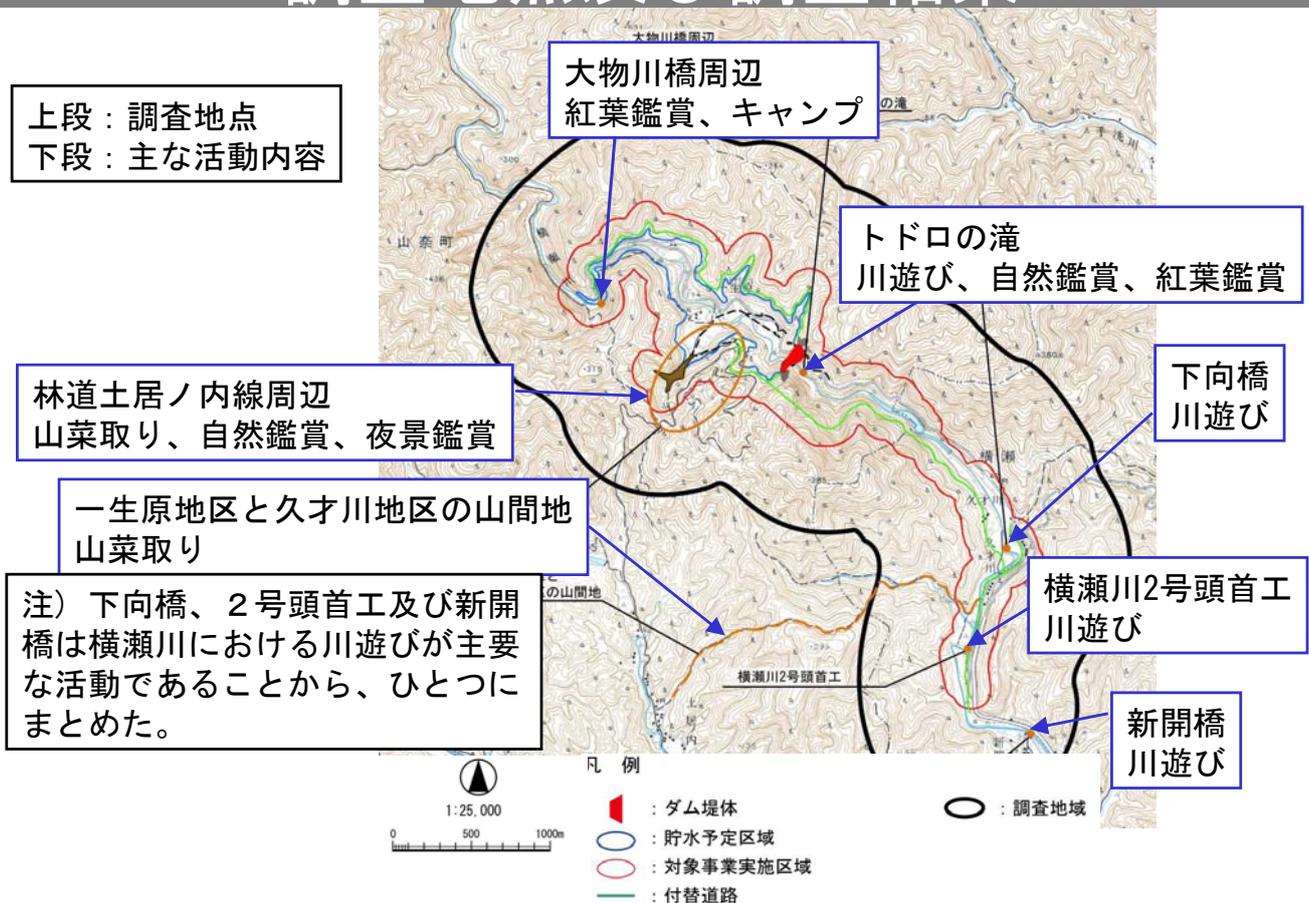
# 人と自然との触れ合いの活動の場について

## ■「人と自然との触れ合いの活動の場」とは

野外レクリエーションや日常的な人と自然との触れ合いの活動が一般的に行われる施設又は場。

(例: 登山道、自然探勝路、遊歩道、散策路 等)

## 調査地点及び調査結果



# 調査地点及び調査結果

(現地調査結果及び主要な人と自然との触れ合いの活動の場の選定結果)

調査地点	現地調査結果 (利用者 人/年)	選定結果	備考
新開橋、下向橋及び横瀬川2号頭首工周辺	29	○	
トドロの滝	0	○	工事期間中:アクセス制限 供用開始後、開放予定
一生原地区と久才川地区の山間地	0	×	
大物川橋周辺	0	×	
林道土居ノ内線の周辺	2	○	

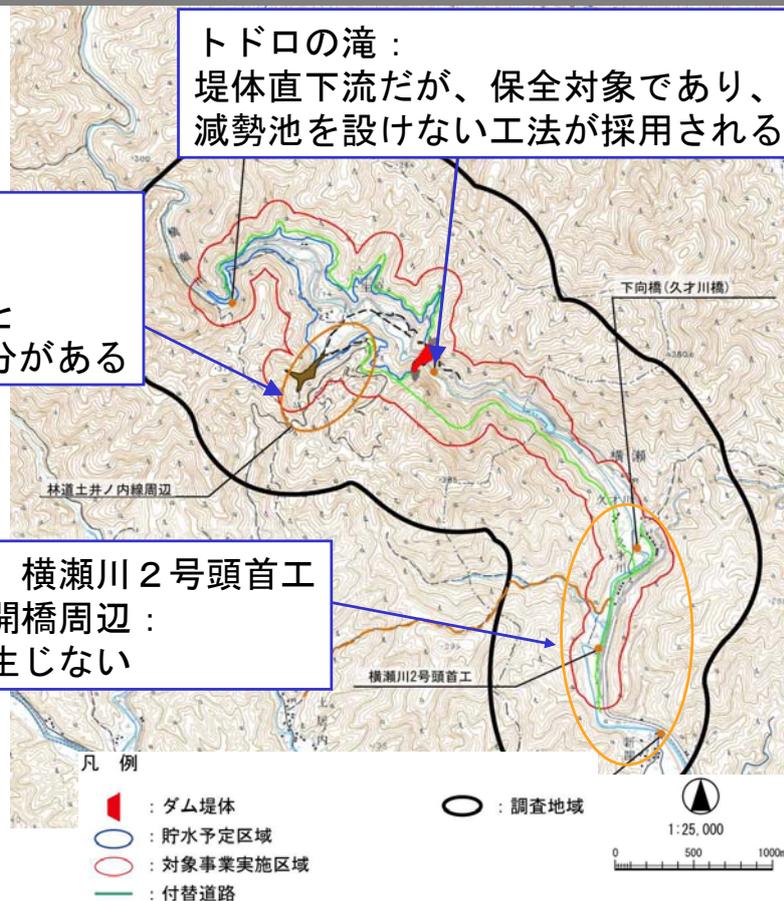
## 予測結果

(工事の実施及びダム  
の供用による改変の程度)

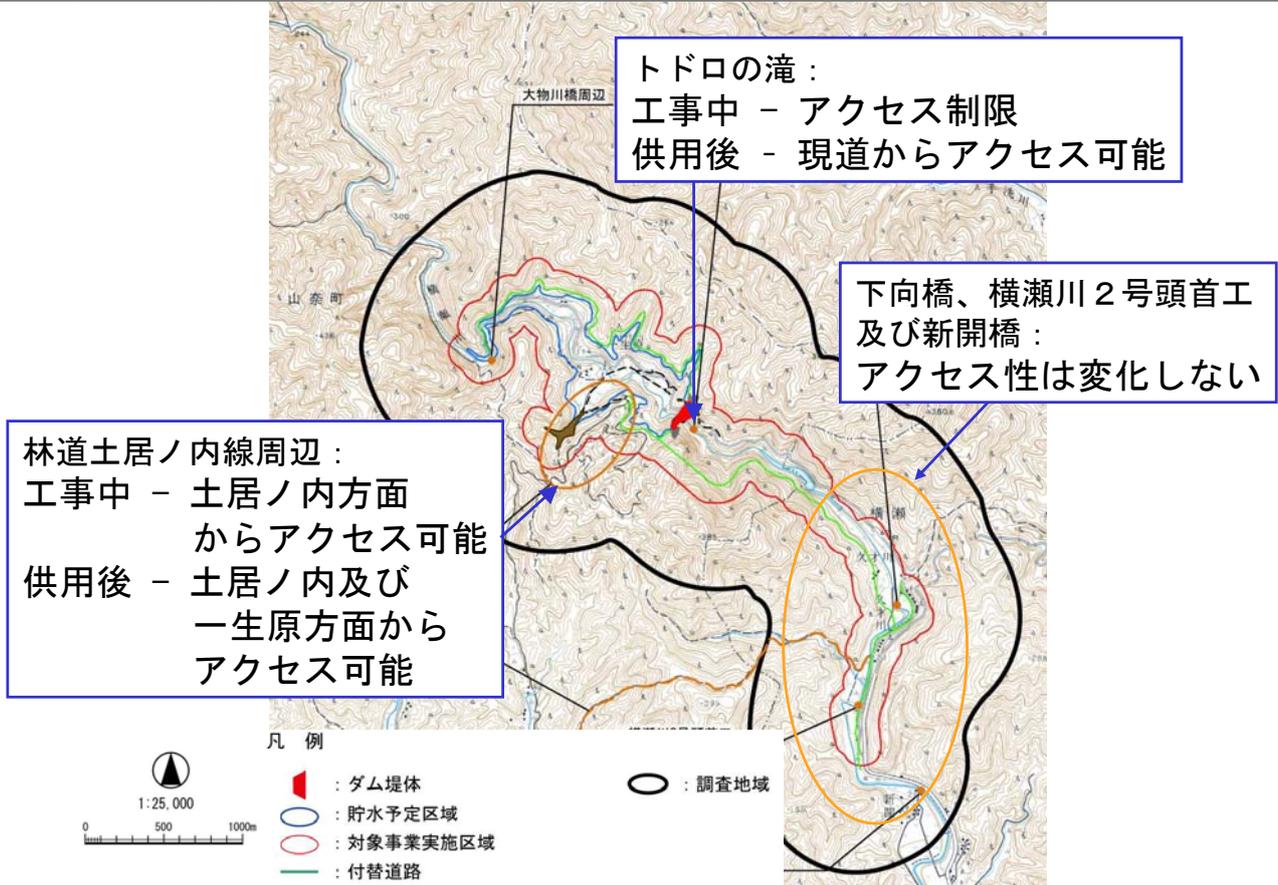
林道土居ノ内線周辺：  
利用地域の一部が貯水池  
あるいは土捨場予定地域と  
重なるため、消失する部分がある

トドロの滝：  
堤体直下流だが、保全対象であり、  
減勢池を設けない工法が採用される

下向橋、横瀬川2号頭首工  
及び新開橋周辺：  
改変は生じない



# 予測結果（利用性の変化（アクセス性））



# 予測結果（快適性の変化（近傍の風景））

予測対象	工事中	供用後
トドロの滝	工事中は安全面から立入禁止としており、活動は行われないため予測しなかった。	滝の直上流にダム堤体が出現し風景に変化が生じるが、周辺樹林を可能な限り保全することから、人工構造物としての印象は軽減され、影響は低減されると予測される。
新開橋、下向橋、横瀬川2号頭首工	下向橋においては、左岸側に付替道路が設置されるが、自然に配慮した工法とすることで、影響は低減されると予測される。 その他の地点は、事業実施区域から離隔があり直接視認できないことから、影響はないと予測される。	下向橋においては、左岸側に付替道路が設置されるが、自然に配慮した工法とすることで、影響は低減されると予測される。 その他の地点は、事業実施区域から離隔があり直接視認できないことから、影響はないと予測される。
林道土居ノ内線の周辺	自然観察においては、工事区域の出現により自然景観が変化するが、変化は一部区間に留まる。また、夜景鑑賞については、主な鑑賞方向は宿毛市街であることから、影響はないと予測される。	自然観察においては、貯水池が出現するが、自然的要素であり影響は小さいと予測される。また、夜景鑑賞については、主な鑑賞方向は宿毛市街であることから、影響はないと予測される。

## 予測結果（快適性の変化（水質の変化））

### ・トドロの滝における水質の変化

工事中 - 工事中は安全面から立入禁止としており、活動は行われなかったため予測しなかった。

供用後 - 快適性に係る横瀬川ダム建設前後の水質及び水温の変化は、小さいと考えられる。

### ・横瀬川(下向橋、横瀬川2号頭首工及び新開橋)における水質の変化

工事中 - 出水時には河川における活動は行われないと考えられることから、快適性は変化しないと考えられる。

供用後 - 快適性に係る横瀬川ダム建設前後の水質及び水温の変化は、小さいと考えられる。

## 評価結果

事業者の実行可能な範囲内で出来る限り回避又は低減されている。